

韓統連大阪通信紙

自主

チヤジュ

384号

2023年3月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

尹錫悦大統領は韓米合同軍事演習を直ちに中止して、南北対話を行え！

尹錫悦大統領が就任後、文在寅前大統領の南北対話路線を全面的に否定し、対北対決姿勢を鮮明にして軍事的圧力を高めるため、切れ目のない韓米合同軍事演習と韓米日安保協力体制の強化に力を注いでいます。

昨年8月22日から9月1日まで、11日間の合同軍事演習が実施されました。朝鮮半島有事を想定した実戦さながらの演習で4年ぶりだといわれています。今年も朝鮮からの核攻撃を想定した「拡大抑止手段運用演習」が同じく11日間行われます。

米国は朝鮮の核・ミサイル開発と高度化に対して、これを止めるため各種の制裁措置を行っていますが、効果を発揮していないのが現状です。核関連施設への攻撃は大規模戦闘へ拡大する恐れが

あるので、現段階では合理的な解決方法とは言えません。米国としては「実戦」は問題外だが「実戦並み」の演習で朝鮮を圧迫して体力を奪う戦略です。実際、朝鮮は韓米の大規模合同演習を宣戦布告とみなすと警告しています。米国は大規模合同軍事演習に対する朝鮮の非難に対して「朝鮮を敵だと思っていない。無条件で対話の扉は開いている」と虚言を弄しています。

朝鮮は度重なる韓米合同軍事演習に対抗して昨年、大陸間弾道弾「火星17型」の発射実験を成功させ、年末には6連装の大型放射砲を30台実戦配備したのに続き「火星15型」の実験を断行して、朝鮮の軍創建記念日の軍事パレードに改良型「火星17型」を登場させ、開発の速さに世界を驚かせました。「火星17型」の登場で、韓国は米国の提供する「拡大抑止（韓国が核攻撃され

た場合米国が攻撃されたとみなし、核で反撃する行為）」に疑問を呈しました。「米国のいくつかの都市が核攻撃を受ける覚悟で韓国を守るだろうか?」「韓国も独自の核兵器を持つべきだ」と尹大統領が発言しました。これには米国内にも韓国への同情論が上がりました。しかし、独自の核武装は米国が許さないのは当然です。核不拡散条約体制を脅かす重大事だからです。

「火星15型」と「火星17型」は同じ大陸間弾道ミサイルですが、「火星15型」は噴射口が2つなのに対し、「火星17型」は4つでより多い重量を運べ、核弾頭が最低4基搭載できるといわれています。

このようないわゆる「強対強」の対立がエスカレートすれば、偶発的な衝突が大規模戦闘に拡大するリスクは高まるばかりです。今、韓国社会では多くの市民団体などが「韓米合同軍事演習を即刻中止しろ」と声を高めています。住宅難に加えて、物価高騰で寒い冬の暖房費に苦しむ庶民は、戦争準備より民生安定を優先させろと尹政権を批判しています。

南北双方にとっても軍備拡張競争が、負担が重くのしかかる状況から抜け出す方策を話し合うことが得策だとわかっていると思います。何よりも朝米対話の早期再開を求めます。米国議会内でも朝鮮戦争の「終戦宣言」を求める声が上がっています。米国在住の離散家族の再会を実現させるためにも朝鮮への渡航制限を緩和し、朝米の「平和協定締結」と「国交正常化」が切実に求められます。(鐵)



▲韓米合同軍事演習中止を訴える韓国民衆

尹錫悦政権による公安弾圧と

韓米合同軍事演習の中止を訴える！

韓統連全国代表者決意集会

韓米合同軍事演習が3月に予定され、朝鮮半島の軍事的緊張が高まる中「公安弾圧反対！韓米合同軍事演習中止！尹錫悦政権糾弾！韓統連全国代表者決意集会」が2月26日（日）、名古屋市公会堂（名古屋市昭和区）で開かれた。



▲尹政権による公安弾圧中止を訴える

プラカードアピール

集会では、宋世一（ソン・セイル）韓統連委員長が主催者挨拶を通じ「尹錫悦政権は徹底した対米追従により、中国との関係を悪化させ、経済危機を招いた。民生破たんを労働運動に責任転嫁し、進歩陣営や野党にも弾圧を加えている。国民からの批判の目をそらし、反対勢力を封じることで保守政権を継続させることが狙いだ」と指摘するとともに、3月に予定されている韓米合同軍事演習については「核兵器を使用することができる戦略資産を動員し、朝鮮に対する核脅威を与えようとしており、非常に緊張が高まっている。軍事演習を即時中止し、対話を再開しなければならない」とし、「すべての反尹錫悦勢力が総結集し、総反撃に転じるときだ。韓統連が先頭に立ち、闘争を牽引しよう」と語った。

続いて、韓成祐（ハン・ソウ）韓青中央本部委員長、李勝熙（イ・スンヒ）韓統連京都本部再建委員会委員長が意見表明を行った。韓委員長は「尹錫悦大統領は戦争主義者と言うほかなく、団結した闘争で

糾弾しなければならない」と訴え、李委員長は「祖国の分断はいまだ続いており、尹政権によって危機は拡大している。これ以上祖国の状況を座視することはできない。皆さんと共に闘っていく」と明らかにした。

その後、金隆司（キム・ユンサ）副委員長が決議文を朗読し、最後に趙基峰（チョ・キボソ）副委員長が閉会挨拶を行い、代表者決意集会は終了した。

労働組合つぶしを許してはならない！

団結して闘えば必ず勝利できる！

2・18全国アクション

労働組合つぶしの大弾圧を許さない実行委員会主催の「労働組合つぶしの大弾圧を許さない2・18全国アクション」が2月18日（土）、豊崎西公園（大阪市北区）で開かれた。

デモ出発集会では、実行委員会代表（全港湾大阪支部委員長）の小林勝彦さんが主催者挨拶を行った後、湯川裕司関西地区生コン支部委員長から、この間の裁判闘争と今後の展望について「たとえ不当判決が下されても絶対に後退はしない。団結して闘えば必ず勝利することができる。共に闘おう」と語った。



▲大阪市内をデモ行進する参加者

その後、組合員からの決意表明、参加者全員でのプラカードを掲げるプラカードアピール、文化発表などが行われ出発集会は終了した。

その後、参加者はサウンドデモを行い、道行く人々に「弾圧止めろ」などを訴えた。

第58回韓青全国冬期講習会報告

～「民族的に生きる」ことを学び、同胞青年同士の交流を深める～

韓青中央本部委員長 韓成祐(ハン・ソウ)

「民族的に生きる」ことについて考えを深めました。

その日の夜は冬期講習会のメイン企画で、各地方本部が準備してきた文化発表や、各班で作った寸劇を披露する「韓青文化マダン」が行われました。

文化マダンでは初めに兵庫県本部がサムルノリが披露され、3人中2人が民族楽器初心者でしたが素晴らしい演奏でした。続いて京都府本部と大阪府本部が韓国民衆歌手グループ「ウリナラ」の曲「カジャトンイルロ（行こう統一へ）」の歌と律動が披露されました。

各班の寸劇をはさんだ後、東京本部が関東大震災朝鮮人虐殺をテーマにした朗読劇を演じ、最後は三重県本部と愛知県本部がテコンドーとアンム（闘争曲に合わせて演舞する韓国運動圏の文化）が披露されました。その後、民族楽器のリズム

と民謡で歌って踊る「群舞」で文化マダンは大いに盛り上がりました。

最終日は閉会式を行い、各参加者が感想を述べました。特に印象的だった感想として「同じ世代の在日同胞の考えを聞けてとても勉強になった」「韓青文化マダンに参加して、民族としての感動を感じた」といった感想が聞かれました。

最後に尹鏞昊実行委員長が閉会挨拶を通じ「キャンプが終わり日常に戻ると日本社会に埋没してしまうが、今後も各地域での韓青活動に参加することで、この感動を忘れないで欲しい」と語りました。

韓青では各地方本部で盟員を募集しています。朝鮮半島にルーツのある16～35歳までの在日コリアン青年が参加対象者で、私たちの仲間には日本国籍の在日コリアンやニューカマーの青年もいます。ぜひ一度韓青を通じて同じルーツを持つ在日同胞青年に出会ってみてください！

在日韓国青年同盟（韓青）は2月23日から25日まで、長野県志賀高原で「第58回韓青全国冬期講習会 スノーフェスティバル2023」を開催しました。全国各地から同胞青年が集まり、2泊3日のプログラムの中でウィンタースポーツを楽しんだり、民族の歴史や文化に触れたり、同胞青年として「民族的に生きる」ことについて語り合いました。

各地方から夜行バスに乗って宿舎に到着後、開会式を行いました。開会式では2泊3日を共にする班のメンバーが発表され、続くアイスブレイク

（緊張感をほぐす）企画と班別討論を通じて班メンバーの人となりを知りました。また今回の冬期講習会のテーマ曲として韓国民衆歌手グループ「ウリナラ」の曲「セロウンキル（新しい道）」を歌って踊れるようになるノレ指導も行われました。



▲文化マダンで披露された韓青京都本部・大阪本部の律動

午後からはゲレンデに行き、ゲレンデ企画を行いました。ゲレンデ企画は班対抗で行われ、雪玉を投げてキャッチできるかを競うゲームや、雪像作りなどの企画を楽しみました。その後はスキーやスノーボードなどを楽しみました。今回初めてスノーボードに挑戦するメンバーもいましたが、経験者が教え合い、2日目には滑れるようになっていました。

初日の夜は「在日同胞渡航史」の学習企画を韓成祐（ハン・ソウ）中央委員長が講師を担い行いました。学習会では▲日本の朝鮮植民地支配から朝鮮人が渡航せざるを得なくなった理由、▲日本での朝鮮人の暮らし、▲世代を経て変わっていく在日同胞について学習しました。その後、班別討論を行い、それぞれの在日同胞としてのルーツなどについて話し合いました。

2日目は、尹鏞昊（ユン・ヨンホ）実行委員長が講師を務め「民族的に生きる」をテーマに学習企画を実施しました。講師自身の人生を振り返りながら

被害者が納得できる謝罪と補償なしの解決はあり得ない！

日本製鉄元徴用工裁判を支援する会 中田光信

日本製鉄と三菱重工の強制動員被害者の損害賠償請求を認めた韓国大法院判決から4年余り経った。現在検討されている解決案は、韓国の日帝強制動員被害者支援財団が日本企業の債務を肩代わりする代わりに、日本政府が村山談話や1998年の日韓パートナーシップ宣言「レベル」の謝罪を表明するというもので、韓国政府が求めている賠償に代わる日本製鉄・三菱重工の財団への「寄付」は求めず、寄付を行うとしても、当該企業以外からの資金拠出によるという被害者が到底納得できない案である。

日本製鉄は日本と韓国を通じて20数年間争った民事訴訟の「最終判決」として賠償を命じられた当事者である。そして、なにより被害者らに強制労働を強いたのは日本製鉄と三菱重工だ。韓国大法院が賠償を命じたのは日本政府ではなく、日本製鉄・三菱重工に対してであり、判決の履行を求められたのも当該企業である。



▲解決求める2・17日鉄本社前行動

日本製鉄をはじめて訴えた被害者は1995年釜石製鉄所に強制動員され、戦争末期の米軍の艦砲射撃によって亡くなった元徴用工遺族だった。その遺族と新日鉄(当時)は和解をした。しかし1997年に未払賃金と謝罪と補償を求めて2人の元徴用工が大阪地裁に訴えた裁判については、一貫して会社は「強制連行問題解決の責任は政府にある」と主張して争い、日本の最高裁では被害者の請求は棄却された。その後、韓国内の調査で名乗り出た被害者ら180名を代表する形で2005年に大阪訴訟の2名を含む5名がソウル中央地裁に訴えを起こした。

2012年、韓国大法院は「植民地支配下の強制労働は韓国憲法の核心的価値に反する」として被害者らの損害賠償請求権を認め裁判を高等法院に差し戻した。また2001年に釜山地裁に提訴

していた三菱広島被爆徴用工らの裁判に続いて、三菱名古屋工場に強制動員された元勤労女子挺身隊の被害者らも2012年の判決を受けて韓国で裁判を起こした。その後、日本製鉄に強制動員された被害者のうち生存者に絞って7名の被害者の「追加提訴」も行われた。しかし、これらの裁判を通じて現在生存者原告はわずか3名となってしまった。

20数年の裁判闘争の時間の経過の中で、被害者らの解決案への受け止めも様々ではある。しかし、盧武鉉政権下で一定被害者への施策は行われたが、日韓両政府が植民地支配責任を棚上げにしたまま締結した1965年の日韓条約締結時から数えると、半世紀以上被害者は置き去りにされ続けてきたのである。

日本製鉄は、2012年の判決当時、韓国の判決が確定した場合には判決に従う姿勢を示していたが、判決が出るや否や「日韓両政府間の外交交渉の状況等もふまえ適切に対応」と言うと言って4年間判決を無視し続けた。これ自体、自ら掲げる法令順守(コンプライアンス)違反であり、企業の社会的責任(CSR)を放棄したものである。日本政府の陰に隠れて当事者が謝罪も補償もせず、責任を逃れて済ませることは社会的にも到底許されない。

被害者を支援する代理人弁護士は、財団が債務を肩代わりしたとしても「財団の債務者性(併存的債務引受契約の有効性)に関しては、法的に争える」としている。つまり被害者の納得がない限り、日韓両政府が合意したとしても問題解決はありえないのである。



【コラム】

絶望の終わり、そしてはじまり
～あなたが目指す未来は何ですか？～

●コロナ後、私たちの前に広がる未来は

コロナの終わりがようやく見えつつあります。長い3年間でした。コロナによって仕事を失った人、生活の困難に追い込まれた人、目指していた目標をあきらめざるを得なかった人がたくさんいると思います。

行きたかったところに行けず、会いたい人に会えず、そして、それが永遠の別れになった人もいるでしょう。世界が断ち切られ、人と人が集まることができない、苦痛の時間が終わろうとしています。ただ、その先に希望が見えないのも事実です。特に大統領選挙の敗北後、ニュースを見ても怒りを感じるばかりです。

尹錫悦政権の非道ぶりは、すでによく知られていることですが、それがただ尹錫悦一派だけのものだと思っははいけません。



▲尹錫悦政権退陣のプラカードを掲げる韓国民衆

●尹錫悦政権の背後にいる勢力たち

尹政権の背後には、財閥をはじめとする韓国でずっと利権を握って来た勢力が存在しています。植民地時代から日本帝国主義と結託し、解放後もずっと暴利をむさぼって来た連中が今、尹錫悦を前面に立て、ここぞとばかりに暗躍しています。もちろん彼らの盟友は日本の自民党政権であり、アメリカです。今後、コロナによる莫大な経済的損失を取り戻すために、世界各地で頻りに戦争の挑発が行われるでしょう。世界は混沌とし、無秩序になって行くかもしれません。

朝鮮半島において局地的な戦争が起こるかも知れない、という不吉な兆しがあります。特に日本はそれを望んでいるでしょう。私たちは、その危機をなすすべもなく傍観するしかないのでしょうか。

決してそんなことはありません。私たちには団結という力があります。ただ、敵は強大です。そ

れは困難な闘いになるでしょう。その過程でまた多くの人の命が奪われる悲劇に直面するかも知れません。

●絶望よりも希望

でも、絶望ではありません。今、私たちにとっては絶望することすら贅沢なのです。私たちに残された道は前進して行くことしかありません。最後まであきらめず、ねばり強く闘い続けるのです。最悪の状態から、少しずつ前に向かって行くことだけが明日をつくるからです。理想の世界が実現

しないからと架空の世界に逃げ込むのではなく、理想の世界を求めて、現実の中でもがき苦しみ、生き続けるのです。

いつか心の底から笑い合える、勝利の日が来ることを信じて。

今、絶望しているあなたに、1980年の光州民主化運動を描いた小説

「少年が来る 소년이 온다」(ハンガン 한강)の一説を送ります。

「하지만 지금, 눈을 뜨고 있는 한, 응시하고 있는 한 끝끝내 우리는(けれども今、目を見開いている限り、じっと見つめている限り。最後に私たちは)」。

最後はいつも希望です。

「すべての危機は、それ自体 新しい出発への起爆剤である(ジジェク)」。

キム・ヘス



【書籍紹介】 プロブレム Q&Aパートナーシップ・生活と制度

[結婚、事実婚、同性婚]

編著 杉浦郁子・野宮亜紀・大江千束

緑風出版・1980円

今号で私が紹介する本は「プロブレムQ&Aパートナーシップ・生活と制度[結婚、事実婚、同性婚]」です。

皆さんは私の母国・韓国でジェンダーギャップが凄いのをどう思いますか？

私は社会の中で自分と違う意見の人がいたら、しっかり分かるまで話を聞くべきだと思います。そして間違っているのなら自らを改めて、社会が間違っていたら糾していく方がよいと思います。

どうして女性に子どもを産む権利、産みたくない子どもを産まない権利が社会に浮上したのでしょうか。どうして異性愛のカップルは結婚できて、同性愛のカップルはできないのか。私は大前提に平和な社会を求めています。平和でないから、戦争があるから、力の差や上下関係、臣従関係があるから搾取されてしまうカテゴリの人がいる、いて、無視をされてしまっているんだと思います。

私は幸せになりたい、だから、だれもが幸せになれる社会になってほしい。声を挙げている理由は“そこ”です。結婚には法律婚と事実婚があります。民法には「夫婦はお互いに協力し、経済的にも助け合わなければならない」としています。その代わりに、一人で相手を支えている場合などで

は、自分の所得税や住民税が減額されるという制度（配偶者控除）があります。国民年金においても優遇があります。会社員の配偶者は、個人で保険料を払わなくても会社員に扶養されている者として国民年金に入ることができます。

一方が死亡したとき、法定相続人として優先的に財産を継承できるのは配偶者です。相続においては税金を納めなければなりません。配偶者は控除額や税率で優遇されており、1億6千万円以内、また法定相続分相当額までなら無税で、それを超えても税率が低く抑えられています。しかし、同性婚が認められていない国では同性カップル、同性夫婦の遺留分などの相続権などについては保証されていません。

私は同性婚には差別があると思っています。セックスは男と女がするもの、家族をつくるのに子どもを前提に考えている場合や偏見から、いままで権利を認めてこなかった経緯があります。

韓国では兵役に行かない女性に対して憎悪がありますが、戦争を起こしているのは誰でしょうか。戦争に行きたくない男性もいます。女性の特権とかではありません。平和な社会には上も下もないと思います。（法師）



◆◆行事紹介◆◆

韓統連セミナー2023 シリーズ「尹錫悦政権とどのように向き合うか」第1回

尹政権の対日政策と私たちの課題

～戦後補償問題のゆくえ～

日 時：4月16日（日）午後1時30分 受付／午後2時 開会

場 所：KCC会館5階ホール（地下鉄今里駅2番出口から徒歩7分）

報告者：金昌範（朴・チヤボム）韓統連大阪本部副代表委員

参加費：800円（青年学生500円）

主 催：韓統連大阪本部／問合せ：090-3822-5723（崔）